

葉山町広告掲載基準

制定 平成18年3月31日

(趣旨)

第1条 この基準は、葉山町広告掲載要綱(平成18年3月31日制定)第4条第2項の規定に基づき、広告媒体に掲載できる広告に関する基準に関し必要な事項を定めるものであり、広告媒体への可否は、この基準に基づき判断を行うものとする。

(広告全般に関する基本的な考え方)

第2条 葉山町の広告媒体に掲載する広告は、社会的に信用度の高い情報でなければならぬため、広告内容及び表現は、それにふさわしい信用性と信頼性を持てるものでなければならない。

(個別の基準)

第3条 この基準に規定するもののほか、広告媒体の性質に応じて、広告内容及びデザイン等に関する個別の基準が必要な場合は、別に基準を作成することができる。

(規制業種又は事業者)

第4条 次の各号に定める業種又は事業者の広告は、掲載することができない。

- (1) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律で風俗営業と規定される業種
- (2) 風俗営業類似の業種
- (3) 消費者金融
- (4) たばこに関するもの
- (5) ギャンブルに関するもの
- (6) 規制対象となっていない業種においても、社会問題を起こしている業種及び事業者
- (7) 法律の定めのない医療類似行為を行う施設
- (8) 占い、運勢判断等に関するもの
- (9) 興信所、探偵事務所等
- (10) 特定商取引に関する法律で、連鎖販売取引と規定される業種
- (11) 債権取立て、示談引受け等をうたったもの
- (12) 法令等に基づく必要な許可等を受けることなく業を行うもの
- (13) 民事再生法及び会社更生法による再生・更生手続中の事業者
- (14) 各種法令に違反しているもの
- (15) 行政機関からの行政指導を受け、改善がなされていないもの
- (16) 本町の税等を滞納しているもの
- (17) 不当景品類及び不当表示法に違反しているもの

(掲載基準)

第5条 次の各号に定めるものは、広告媒体に掲載することができない。

- (1) 次のいずれかにかに該当するもの

- ア 人権侵害、差別、名誉毀損のおそれがあるもの
- イ 法律で禁止されている商品、無認可商品及び粗悪品などの不適切な商品又はサービスを提供するもの
- ウ 他を誹謗、中傷又は排斥するもの
- エ 町の広告事業の円滑な運営に支障をきたすもの
- オ 公の選挙又は投票の事前運動に該当するもの
- カ 宗教団体による布教推進を主目的とするもの
- キ 非科学的又は迷信に類するもので、利用者を惑わせたり、不安を与えるおそれのあるもの
- ク 社会的に不適切なもの
- ケ 国内世論が大きく分かれているもの

(2) 消費者被害の未然予防及び拡大防止の観点から適切でないものとして、次のいずれかに該当するもの

ア 誇大な表現(誇大広告)の禁止(根拠となる資料を要する。)

根拠のない表示や誤認を招くような表現

例:「世界一」「一番安い」等

イ 射幸心を著しくあおる表現の禁止

例:「今が・これが最後のチャンス(今購入しないと次はないという意味)」等

ウ 人材募集広告については労働基準法等関係法令を遵守していないもの

エ 虚偽の内容を表示するもの

オ 法令等で認められない業種・商法・商品

カ 国家資格等に基づかない者が行う療法等

キ 責任の所在が明確でないもの

ク 広告の内容が明確でないもの

ケ 国、地方公共団体その他公共の機関が、広告主又はその商品やサービス等を推奨、保証、指定等をしているかのような表現のもの

(3) 青少年保護及び健全育成の観点から適切でないものとして、次のいずれかに該当するもの

ア 水着姿及び裸体姿等で広告内容に無関係で必然性のないもの。ただし、出品作品の一例または広告内容に関連する等、表示する必然性がある場合は、その都度適否を検討するものとする。

イ 暴力や犯罪を肯定し助長するような表現

ウ 残酷な描写など、善良な風俗に反するような表現

エ 暴力又はわいせつ性を連想・想起させるもの

オ ギャンブル等を肯定するもの

カ 青少年の人体・精神・教育に有害なもの

(ホームページに関する基準)

第6条 ホームページへの広告に関しては、ホームページに掲載する広告だけでなく、当該広告がリンクしているホームページの内容についてもこの基準を適用する。

2 他のホームページを集合し、情報提供することを主たる目的とするホームページで葉山町広告掲載要綱及びこの基準その他町の定める広告に関する規定に反する内容を取り扱うホームページを閲覧者

にあっせん又は紹介しているホームページの広告は掲載しない。

(広告表示内容に関する個別の基準)

第7条 具体的な表示内容等については、掲載の都度、当該広告媒体主管課が次の各号に掲げる項目について検討し、判断するものとする。なお、医療、老人保健施設、選挙等に関する表示内容及び消費

者関連法に基づく表示基準については、当該広告主管課が直接、後記「参考資料(広告表示の相談窓口)」に相談することとし、判断の結果、当該内容について訂正、削除等が必要な場合には、当該広告

媒体主管課は広告主にその訂正、削除等を依頼するものとする。この場合において、広告主は、正当な理由がある場合を除き訂正、削除等に応じなければならない。

(1) 人材募集広告

ア 労働基準法等関係法令を遵守していること。

イ 人材募集に見せかけて、売春等の勧誘やあっ旋の疑いのあるものは認めない。

ウ 人材募集に見せかけて、商品、材料及び機材の売りつけや資金集めを目的としているものは掲載しない。

(2) 語学教室等

安易さや授業料、受講料の安価さを協調する表現は使用しないこと。

例:「一か月で確実にマスターできる」等

(3) 学習塾・予備校等(専門学校を含む。)

ア 合格率など実績を載せる場合は、実績年もあわせて表示すること。

イ 通信教育、講習会、塾又は学校類似の名称を用いたもので、その実態、内容、施設等が不明確なものは掲載しない。

(4) 外国大学の日本校

次の主旨を明確に表示すること。

例:「この大学は、日本の学校教育法に定める大学ではありません。」

(5) 資格講座

ア 民間の講習業者が「労務管理士」などの名称で資格講座を設け、それがあたかも国家資格であり、各企業は労務管理士を置かなければならないという誤解を招くような表現は使用しないこと。また、次の趣旨を明確に表示すること。

例:「この資格は、国家資格ではありません。」

イ 「行政書士講座」など講座には、その講座だけで国家資格が取れるというような紛らわしい表現は使用しないこと。また、次の趣旨を明確に表示すること。

例：「資格取得には、別に国家試験を受ける必要があります。」

ウ 資格講座の募集に見せかけて、商品及び材料の売りつけや資金集めを目的としているものは掲載しない。

エ 受講費用がすべて公的給付でまかなえるかのように誤解される表示はしないこと。

(6) 病院、診療所、助産所

ア 広告できる事項は、医療法第6条の5又は第6条の7、関連法令、厚生労働省の告示、同省の医療広告ガイドラインに定める広告規制等の関連規定に反しないこと。

イ バナー広告、テキスト広告のリンク先である病院等のホームページの内容は、医療法の規制がかかる広告にはあたらないため、アの規定は適用しない。

ウ 不明な点は、保健センターへ確認する。

(7) 飼育動物の診療施設

ア 広告できる事項は、獣医療法第17条、関連法令、農林水産省の告示、同省の獣医療広告ガイドラインに定める広告規制等の関連規定に反しないこと。

イ 不明な点は、神奈川県中央家畜保健衛生所へ確認する。

(8) 施術所（あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう・柔道整復）

ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律第7条又は柔道整復師法第24条、関連法令、関連通知等の規定により広告できる事項以外は、一切広告できない。

イ 施術者の技能、施術方法又は経歴に関する事項は広告できない。

ウ 法定の施術所以外の医療類似行為を行う施設（整体院、カイロプラクティック、エステティック等）の広告は掲載できないため、業務内容の確認は必ず行う。

エ 不明な点は、神奈川県鎌倉保健福祉事務所へ確認する。

(9) 薬局、薬店、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療用具（健康器具、コンタクトレンズ等）

ア 薬事法第66条から第68条までの規定及び厚生労働省の医薬品等適性広告基準の規定並びに各法令所管省庁の通知等に定められた規定に反しないこと。

イ 医療機器については、厚生労働省の承認番号を記載すること。

ウ 広告を掲載する事業者が、業者所在地を所管する地方自治体の薬務担当部署において広告内容が適法・適正であることについて確認をとっていること。

(10) 健康食品、保健機能食品、特別用途食品

ア 健康増進法第32条の2、薬事法第68条、食品衛生法第20条並びに各法令所管行政庁の通知等に定められた規定に反しないこと。

イ 健康食品は、医薬品と誤認されるような効能・効果について表示できない。

ウ 保健機能食品及び特別用途食品については、広告内容が国及び法令により認められている表示事項の範囲を超えていないこと。かつ、法令等により定められている表示すべき事

項が記載されていること。

エ 広告を掲載する事業者が、業者所在地を所管する地方自治体の業務担当部署及び食品担当部署において広告内容が適法・適正であることについて確認をとっていること。

(11) 介護保険法に規定するサービス・その他高齢者福祉サービス等

ア サービス全般（老人保健施設を除く。）

(ア) 介護保険法に規定する介護保険の保険給付対象となるサービスとそれ以外のサービスを明確に区分し、誤解を招く表現を用いないこと。

(イ) 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。

(ウ) その他、サービスを利用するに当たって、有利であると誤解を招くような表示はできない。

例：葉山町事業受託事業者 等

イ 有料老人ホーム

アに規定するもののほか、次によること。

(ア) 厚生労働省「有料老人ホーム設置運営標準指導指針」に規定する事項を遵守し、別表「有料老人ホームの類型及び表示事項」の各類型の表示事項はすべて表示すること。

(イ) 所管都道府県の指導に基づいたものであること。

(ウ) 公正取引委員会の「有料老人ホーム等に関する不当な表示」及び同表示に関する運用基準に抵触しないこと。

ウ 有料老人ホーム等の紹介業

(ア) 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。

(イ) その他利用に当たって有利であると誤解を招くような表示はできない。

エ 介護老人保健施設

介護保険法第98条の規定により広告できる事項以外は広告できない。

(12) 不動産事業

ア 不動産事業者の広告の場合は、名称、所在地、電話番号、認可免許証番号等を明記すること。

イ 不動産売買や賃貸の広告の場合は、取引様態、物件所在地、面積、建築年月、価格、賃料、取引条件の有効期限を明記すること。

ウ 「不動産の表示に関する公正競争規約」による表示規制に従うこと。

エ 契約を急がせる表示は掲載しない。

例：「早い者勝ち」、「残り戸数あとわずか」 等

オ 住宅の品質確保の促進等に関する法律に規定された住宅性能表示制度の適用を受けていない住宅の売買の広告は掲載しない。

(13) ウィークリーマンション等

営業形態に応じて、必要な法令等に基づく許可等を受けていること。

(14) 墓地等

都道府県知事又は町長の許可を取得し、許可年月日、許可番号及び経営者名を明記すること。

(15) 弁護士・税理士・公認会計士等

各業に関する法令及び監督団体等の定める広告規制に抵触する内容ではないこと。

(16) 旅行業

ア 広告主は社団法人日本旅行業協会又は社団法人全国旅行業協会の会員とし、登録番号、所在地、補償の内容を明記すること。

イ 不当表示に注意すること。

例：白夜でない時期の「白夜旅行」、行程にない場所の写真等

ウ その他、広告表示について旅行業法第12条の7及び第12条の8並びに旅行業公正取引協議会の公正競争規約に反しないこと。

(17) 通信販売業

ア 会社の概要、取扱商品等を検討し、掲載が妥当と判断した業者に限り掲載する。

イ 特定商取引に関する法律第11条及び第12条並びに同法施行規則第8条から第11条の規定に反しないこと。

(18) 雑誌・週刊誌等

ア 適正な品位を保った広告であること。

イ 見出しや写真の性的表現などは、青少年保護等の点で適正なものであること及び不快感を与えないものであること。

ウ 性犯罪を誘発・助長するような表現（文言、写真）がないものであること。

エ 犯罪被害者（特に性犯罪や殺人事件の被害者）の人権・プライバシーを不当に侵害するような表現がないものであること。

オ タレントなど有名人の個人的行動に関しても、プライバシーを尊重し節度をもった配慮ある表現であること。

カ 犯罪事実の報道の見出しについて、残酷な言葉やセンセーショナルな言い回しを避け、不快の念を与えないものであること。

キ 未成年、心神喪失者などの犯罪に関連した広告では、氏名及び写真は原則として表示はしない。

ク 公の秩序や善良な風俗に反する表現のないものであること。

(19) 映画・興行等

ア 暴力、とばく、麻薬及び売春などの行為を容認するような内容のものは掲載しない。

イ 性に関する表現で、扇情的、露骨及びわいせつなものは掲載しない。

ウ いたずらに好奇心に訴えるものは掲載しない。

エ 内容を極端にゆがめたり、一部分のみ誇張した表現等は使用しない。

オ ショッキングなデザインは使用しない。

カ その他青少年に悪影響を与えるおそれのあるものは掲載しない。

キ 年齢制限等、一部規制を受けるものはその内容を表示する。

(20) 古物商・リサイクルショップ等

ア 営業形態に応じて、必要な法令等に基づく許可等を受けていること。

イ 一般廃棄物処理業に係る町長の許可を取得していない場合は、廃棄物を処理できる旨の表示はできない。

例：回収、引取り、処理、処分、撤去、廃棄など

(21) 結婚相談所・交際紹介業

ア 結婚情報サービス協議会に加盟していること（加盟証明が必要）を明記する。

イ 掲載内容は、名称、所在地及び一般的な事業内容等に限定する。

ウ 公的機関に認められた個人情報の保護体制を整えていること（財団法人日本情報処理開発協会のプライバシーマークを取得している等）。

(22) 労働組合等一定の社会的立場と主張を持った組織

ア 掲載内容は、名称、所在地及び一般的事業案内等に限定する。

イ 出版物の広告は、主張の展開及び他の団体に対して言及（批判、中傷等）するものは掲載しない

(23) 募金等

ア 厚生労働大臣又は都道府県知事の許可を受けていること。

イ 下記の主旨を明確に表示すること。

例：「 募金は、 知事の許可を受けた募金活動です。」

(24) 質屋・チケット等再販売業

ア 個々の相場、金額等の表示はしない。

例： のバッグ 50,000 円、航空券 東京～福岡 15,000 円等

イ 有利さを誤認させるような表示はしない。

(25) トランクルーム及び貸し収納業者

ア 「トランクルーム」との表示には、倉庫業法第 25 条の規定により認定を受けた優良トラン

クルームであることが必要であり、その旨を明確に表示すること。

イ 「貸し収納業者」は会社名以外に「トランクルーム」の名称は使用しない。また、下記の主旨を明確に表示すること。

例：「当社の は、倉庫業法に基づく“トランクルーム”ではありません。」等

(26) ダイアルサービス

“ダイアル Q2”のほか各種のダイアルサービスは内容を確認のうえ判断する。

(27) 規制業種の企業による規制業種に関するもの以外の内容の広告

本基準第 4 条で定める規制業種に該当する企業による、規制業種に関するもの以外の内容

の広告は、本基準に定められた規制の範囲内でその掲載を認める。

(28) 金融商品

ア 投資信託等

(ア) 将来の利益が确实・保証されているような表現がないこと。また、利益について記載する場合は必ず予測に基づくものであることを明示すること。

(イ) 元本保証がない旨等のリスクを、目立つようにわかりやすく表示すること。

イ 商品先物取引及び外国為替証拠金取引 (FX) 等

(ア) 監督行政庁等の許可・登録等の商品取扱いに必要な資格を持った事業者であること。なお、名称や登録番号、業界団体会員であることは必ず明記すること。

(イ) 安全・確実性や有利性等を強調し、投機心をいたずらに煽るものでないこと。

(ウ) 利益保証がないこと及び損失が生じる可能性があること等のリスクを、目立つようにわかりやすく表示すること。

ウ その他の金融商品

当該金融商品の内容に応じ、本号ア及びイの規定を準用する。

(29) その他、表示について注意を要すること。

ア 割引価格の表示

割引価格を表示する場合、対象となる元の価格の根拠を明示すること。

例：「メーカー希望小売価格の30%引き」等

イ 比較広告 (根拠となる資料が必要)

主張する内容が客観的に実証されていること。

ウ 無料で参加・体験できるもの

費用がかかる場合がある場合には、その旨明示すること。

例：「昼食代は実費負担」、「入会金は別途かかります」等

エ 責任の所在、内容及び目的が不明確な広告

広告主の法人格を明示し、法人名を明記する。また、広告主の所在地、連絡先の両方を明示する。連絡先については固定電話とし、携帯電話、PHSのみは認めない。また、法人格を有しない団体の場合には、責任の所在を明らかにするために、代表者名を明記する。

オ 肖像権・著作権

無断使用がないか確認をする。

カ 宝石の販売

虚偽の表現に注意 (公正取引委員会に確認の必要あり。)

例：「メーカー希望価格の50%引き」(宝石には通常、メーカー希望価格はない)等

キ 個人輸入代行業等の個人営業広告

ク アルコール飲料

(ア) 未成年者の飲酒禁止の文言を明確に表示すること

例：「お酒は20歳を過ぎてから」等

(イ) 飲酒を誘発するような表現の禁止

例：お酒を飲んでいるまたは飲もうとしている姿等

附 則

この基準は、平成 19 年 3 月 9 日から施行する。

附 則

この基準は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この基準は、平成 21 年 9 月 11 日から施行する。

附 則

この基準は、平成 23 年 7 月 27 日から施行する。

附 則

この基準は、平成 24 年 1 月 1 日から施行する。

【参考資料】

1. 広告表示の相談窓口

(1) 医療関係（医療、健康食品、獣医療含む）

窓口：逗葉医師会 046(871)3405

逗子地域医療センター 046(873)7752

逗葉薬剤師会 046(875)0039

鎌倉逗子鍼灸マッサージ師会 046(872)1134

神奈川県鎌倉保健福祉事務所 0467(24)3900

県央家畜保健衛生所 046(238)9111

神奈川県環境農政局農政部畜産課 045(210)1111

(2) 老人保健施設関係

窓口：神奈川県保健福祉局福祉・次世代育成部高齢施設課 045(210)4835

葉山町保健福祉部福祉課 046(876)1111

(3) 消費者苦情、商品クレーム

窓口：かながわ中央消費生活センター（神奈川県県民局くらし文化部消費生活課内）

045(210)3874

葉山町生活環境部町民サービス課 046(876)1111

(4) 選挙関係

窓口：葉山町選挙管理委員会事務局 046(876)1111